



師範
岡由香里

師範正
内梨櫻舟

師範正
末森水苑

師範正
川久保由香里

成家
下山香琴

成家
秋永春霞



準5級
佐々木律彰

準二段
永田唯華

準四段
牟田悦子

準六段
竹清成翠

師範
藤秀月

師範
橋篤子

每攬昔人興感之由若
合一契未嘗不眩文

不能喻之於懷固知一死
生為虛談齊彭殤為

每攬昔人興感之由若合一契未嘗不眩文
嗟悼不能喻之於懷固知一死生為虛談齊
彭殤為妄作後之視今亦由今之視昔悲夫
故列叙時人錄其所述雖世殊事

不能喻之於懷固知一死
生為虛談齊彭殤為
不為虛談齊彭殤為

師範

重富翠柳

師範正
石田一義

師範正
半田真理

師範正
堤璃江

成兵頭白慧

永和九年歲在癸卯暮春之初會于會稽山陰之蘭亭脩禊事也羣賢畢至少長咸集此地有崇山峻領茂林脩竹又有清流激湍映帶左右引以為流觴曲水列坐其次雖無絲竹管弦之盛一觴一詠足以暢叙幽情是日也天朗氣清惠風和暢仰觀宇宙之大俯察品類之盛所以遊目騁懷足以極視聽所樂也夫夫人之相與俯仰一世或取諸懷撫悟一室之內或因寄所托放浪形骸之外雖趣舍萬殊靜躁不同當其欣於所遇暫得於己快然自足不知老之將至及其所之既倦情隨事遷感慨系之矣向之所欣俯仰之間已為陳迹猶不能不以之興懷況脩短隨化終期於盡古人云死生亦大矣豈不痛哉每攬昔人興感之由若合一契未嘗不為虛談齊彭殤為妄作後之視今亦由今之視昔悲夫故列叙時人錄其所述雖世殊事

須
壽
美
礼
成

不能喻之於懷固知一死
生為虛談齊彭殤為
不為虛談齊彭殤為

準初段
飯田須磨

壽美礼成

不能喻之於懷固知一死
生為虛談齊彭殤為
不為虛談齊彭殤為

準四段
内尾寿美礼

不能喻之於懷固知一死
生為虛談齊彭殤為
不為虛談齊彭殤為

準三段
黑土沙織

不能喻之於懷固知一死
生為虛談齊彭殤為
不為虛談齊彭殤為

六段
古瀨白梢

不能喻之於懷固知一死
生為虛談齊彭殤為
不為虛談齊彭殤為

師範
甲斐房子

不能喻之於懷固知一死
生為虛談齊彭殤為
不為虛談齊彭殤為

師範
矢野純子

作品秀意隨幅条(6月末日締切分)



師範正
大平松泉

師範正
下田華恵

師範正
宮本虹鶴

成家
島溪月

成家
深町鳳月

成家
伊良子喜代



準四段
宇野ももこ

六段
亀井桂茜

準師範
森小筑

準師範
鎌田敬子

師範
徳永直恵

師範
松本恵華

条幅随意(半折1/2横)・学生部条幅1/4 優秀作品 (6月末日締切分)



師範正 伊藤翠光



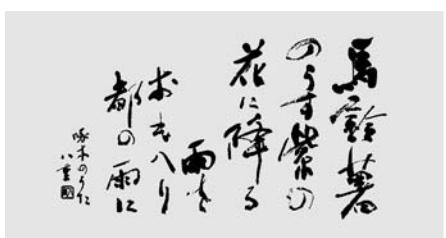
師範正 田染健一



成家植井末美



四段千家由美



準師範 橋本八重子



六段樋田佳代子



小4.2級
靄田愛夏



小4.準三段
渡辺莉音



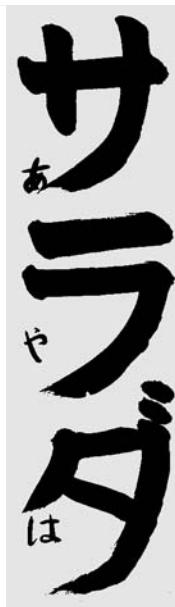
小3.4級
富田翔也



小3.4級
中島菜々美



小2.準4級
中村りこ



小2.準5級
奥永絢羽



小1.準7級
なかやまよしき



中1.準特生
内田英里



中2.準特生
和田千穂



中3.特待生
鹿嶋ひかり



小6.六段
野間口季平



小6.準四段
武田千洸



小5.準五段
八坂麻巳子

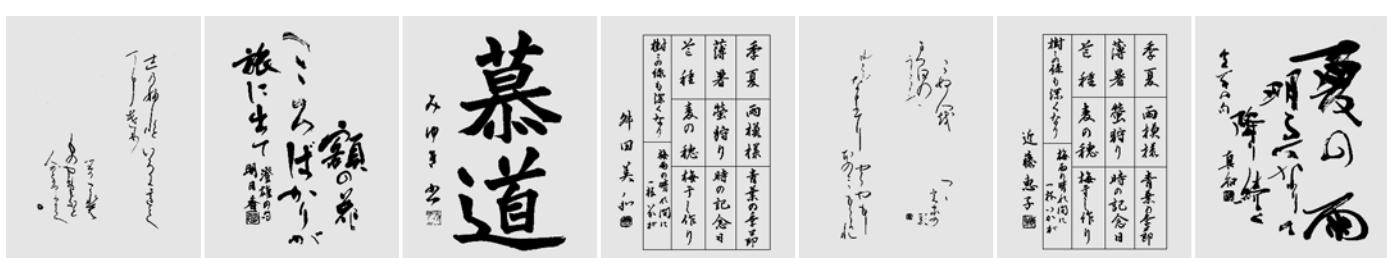


小5.準四段
長尾百花

半紙規定優秀作品 (6月末締切)



半紙隨意優秀作品 (6月末日締切分)



半紙隨意(臨書)優秀作品 (6月末締切分)



師範 藤永琇雲 師範正 伊藤翠光 師範正 登本花徑 師範正 宮本虹鶴 成家 江川悦子 成家 松原華月 成家 川上和子



六段 矢野寿恵 準師範 石原幸英 準師範 中園希翠 準師範 橫溝加代 師範 大石玉翠 師範 曾根順子 師範 平田春蓉



準四段 宮川喜代 準四段 松永美貂 準五段 内田由美 準五段 白瀬留美子 五段 光武和子 準六段 本郷八蘇 六段 櫻井敏子



初段 池田惠泉 初段 草場純子 準二段 相見紀和 二段 大島真翠 師範 郷田菜摘 三段 平田延子

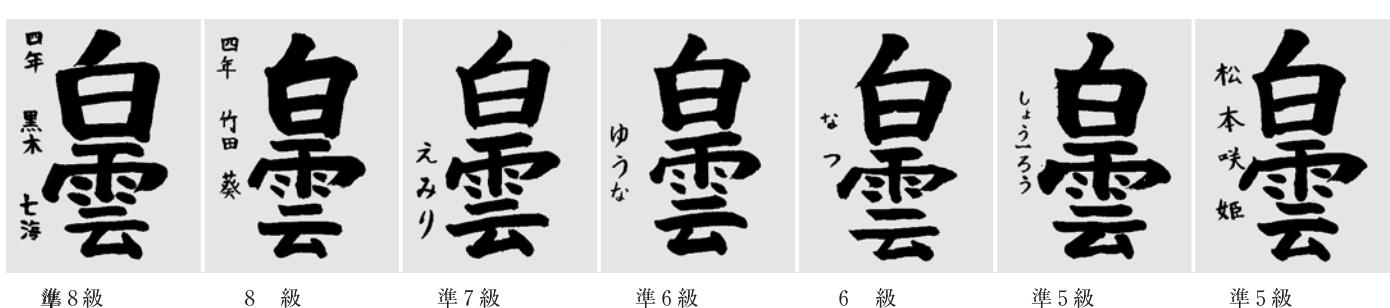
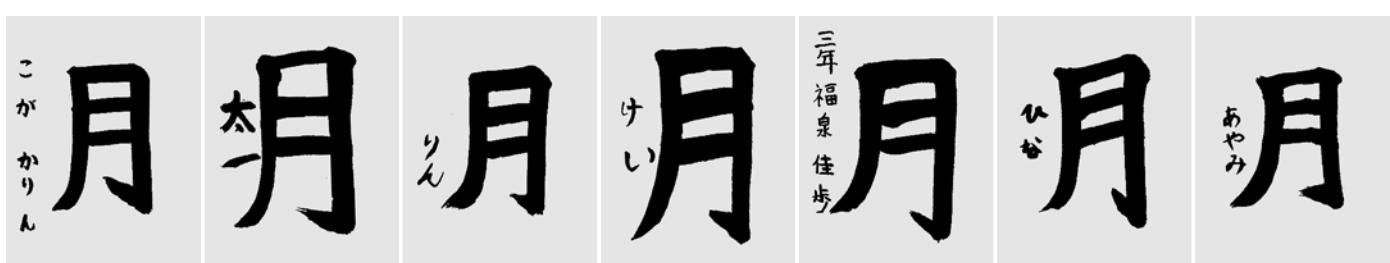
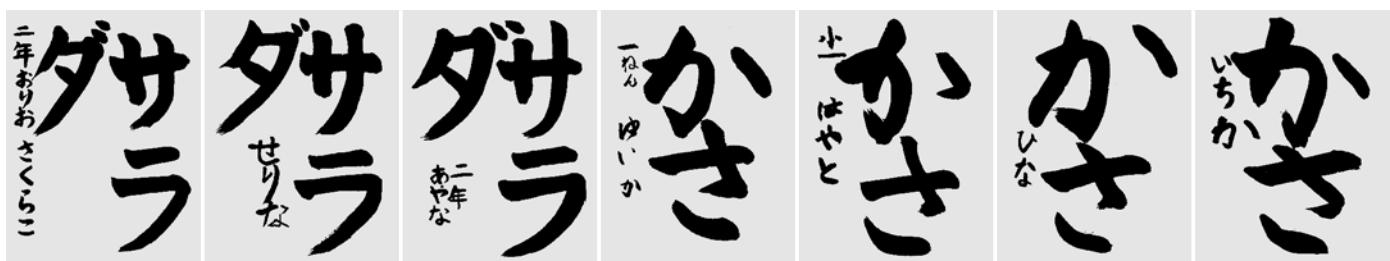


3級 太田紀子 3級 鹿嶋ひかり 準2級 吉村佐登子 準1級 井本志都 1級 森泰山 初段 飯田須磨 初段 古賀千春



6級 吉村妙子 準5級 佐々木律彰 5級 古田修子 準4級 藤原重幸 4級 藤井文子 準3級 倉光純子

半紙優秀作品（6月末日締切分）



半 紙 優 秀 作 品 (6月末日締切分)



準1級 準2級 準3級 準4級 四段
川畑 胡実 手嶋 和奏 福本 詩乃 川遥香 川本 姫楓 北村 友佳 後田 万璃



8級 6級 準5級 準5級 3級 準2級 2級
勝部 友夏 後藤 朱里 永田 瑞晴 木牟礼佳乃 奈須 紗耶 大瀬 智哉 橋井 里奈



秦 海羽 三段 濱中 桜子 四段 田中 智涼 準五段 福島 夢 五段 森脇 隆羅 五段 渡邊 聖玲 準六段 佐々木まなの



4級 3級 準1級 準初段 初段 準2段 二段
日高 美央 富田 大志 岸野 風花 大塙 悠夏 山本 夏恋 近藤 玲実 秋山 里佳

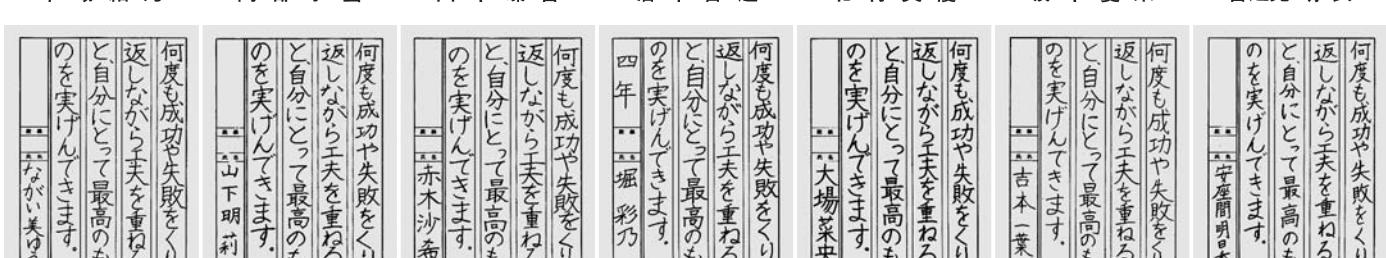
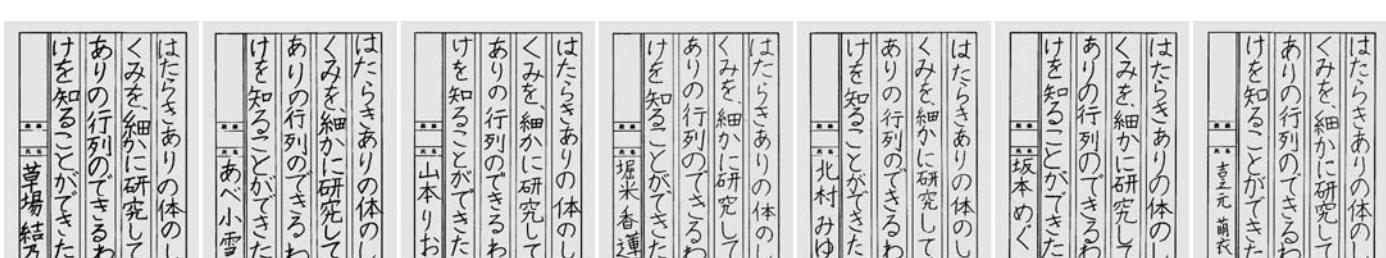
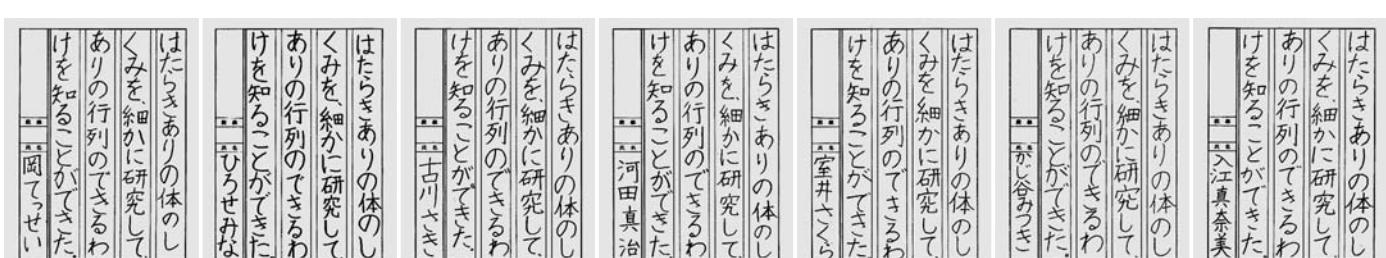


準四段 準四段 四段 準五段 準五段 六段 準特待生
濱田 梨花子 古川 紗也 井上 愛美 中島 伝美 小野 沙桜 宮崎 さくら 野見山 菜 野見山 菜



準四段 準六段 準六段 六段 準特待生 準特待生 特待生
前原 侑佳 丸山 すみれ 河野 七海 竹下 杏香 西村 朋華 斎藤 壮 田口 美来

硬筆優秀作品 (6月末日締切分)



硬筆優秀作品 (6月末日締切分)

8級 山田このか	7級 水崎莉奈	6級 林零仁	準5級 西川侑希	準4級 松本さらら	4級 奈良原柚葉	準3級 桃坂公基
何度も成功や失敗をくり返しながら工夫を重ねる自分にとって最高のもとを実げんできます。						
准2級 安藤巧	2級 宮岡優梨香	準1級 福丸茉奈	1級 手嶋和奏	1級 奥村優奈	準初段 重井董	初段 奈須紗耶
その数数千本、松が根をはるごとに、津波や長年の風雨にも強くもしない強固ない防の効用はそれだけではない。						
8級 萩原なつみ	準6級 百留萌恵	準5級 山下凜	5級 高原梨子	準4級 内川智絵	4級 安田佳乃	準3級 川畑胡実
その数数千本、松が根をはるごとに、津波や長年の風雨にも強くもしない強固ない防の効用はそれだけではない。						
准1級 安楽くるみ	初段 藤田海夕	二段 河村心音	準三段 式町美優	三段 賀星空	準五段 池嶋憂花	五段 新井希梨
文章や本の中でほかの人の著作物を利用するときは著作者名と出典を明示する必要があります。このようにして著者の権利を守ることはとても大切です。						
8級 柴田桃羽	準7級 中嶌怜	準5級 島添瑠美	準4級 林莉央	準4級 木村美友	3級 石田美優	準2級 德永佳奈
トロッコを押しながらゆるい傾斜を登って行った良平は車に手を掛けながら、心はほかのことを考えていた。その坂に向こう下りゆるところ同じような茶店があった。とまた同じような茶店があった。 守ることはとても大切です。						
六段 淀川彩香	六段 野崎麗那	準特待生 河野由	準特待生 首藤龍馬	準特待生 系園千絵	特待生 鈴木直穂	特待生 広瀬憲人
トロッコを押しながらゆるい傾斜を登って行った良平は車に手を掛けながら、心はほかのことを考えていた。その坂に向こう下りゆるところ同じような茶店があつた。 守ることはとても大切です。						

硬筆優秀作品 (6月末日締切分)

準四段 是永 明日香	準四段 鎌田 聖菜	四 段 内田 英里	五 段 田中 韶子	五 段 段村 紋華	五 段 峰 彩陽	準六段 松田 萌愛
<p>トロッコを押しながらゆるい傾斜 を登つて行った。良平は車に手を掛けていたも、心はほかのことを考えていた。その坂に向こうへ下りかかるとまた同じような茶店があった。</p>						
6 級 吉之元 海有	4 級 大井 菜緒佳	2 級 川上 綾音	1 級 小澤 佳歩	準二段 松尾 梨香子	準三段 岩下 愛己	三 段 川西 由記
<p>トロッコを押しながらゆるい傾斜 を登つて行った。良平は車に手を掛けているも、心はほかのことを考えていた。その坂に向こうへ下りかかるとまた同じような茶店があった。</p>						
5 段 勝木 凉子	準六段 田代 千穂	六 段 徳丸 征子	準師範 古村 青霞	準師範 藤井 明美	師範 身深 俊子	師範正 白石 巳砂子
<p>トロッコを押しながらゆるい傾斜 を登つて行った。良平は車に手を掛けているも、心はほかのことを考えていた。その坂に向こうへ下りかかるとまた同じような茶店があった。</p>						
準二段 田村 友里絵	二 段 重 松 周子	二 段 熊谷 真壽子	準三段 江川 慶子	三 段 壇 上 茂子	三 段 枝里 美	三 段 池田 曜月
<p>トロッコを押しながらゆるい傾斜 を登つて行った。良平は車に手を掛けているも、心はほかのことを考えていた。その坂に向こうへ下りかかるとまた同じような茶店があった。</p>						
準2級 藤江 志美枝	2 級 宮本 隆子	2 級 毛利 治代	準1級 三原 典子	1 級 牟田 慶子	準初段 小川 光庸	初段 成富 幸恵
<p>トロッコを押しながらゆるい傾斜 を登つて行った。良平は車に手を掛けているも、心はほかのことを考えていた。その坂に向こうへ下りかかるとまた同じような茶店があった。</p>						
準8級 古田 修子	8 級 円岡 蒼峰	7 級 星 多佳子	準5級 古賀 久仁子	5 級 大澤 めぐみ	準3級 宇野 ももこ	3 級 島 繁子
<p>トロッコを押しながらゆるい傾斜 を登つて行った。良平は車に手を掛けているも、心はほかのことを考えていた。その坂に向こうへ下りかかるとまた同じような茶店があつた。</p>						